

佐賀医学史話

伊東玄朴が滝野玄朴を名乗った時期は？

高野長英の手紙

蘭学者高野長英が、尾張名古屋の蘭学者・本草学者伊藤圭介にあてた、天保元年10月13日の手紙がある。高野長英は、文政11年(1828)に起こったシーボルト事件後、長崎を発してから、各地を講義したり、蘭学者を訪ねて歩いた。江戸に着いたらもはや、再び遊学をすることは難しいと考えたからである。

名古屋を通ったときは、シーボルト門人で本草学者の伊藤圭介や、本草学者水谷豊文、蘭方医吉雄常三ら蘭学者に会うことができ。そのことを、江戸に着いてからの伊藤圭介に宛てた天保元年11月6日付けの手紙に記載している。

伊東玄朴についての記述がみえるのは、天保元年10月13日の手紙である。追伸に「滝野より申上候、先日、宇田川迄御届被成候遠西本草名疏、慥かに落掌仕候、桂川君にも忝部呈し置候。余ハ追而可申上趣二候」とある。

滝野が、伊東玄朴である。伊東玄朴がいうには、伊藤圭介の著書である『遠西(泰西)本草名疏』が、宇田川榕庵と伊東玄朴に届いたということが、記されている。さらにもう忝部が桂川君、すなわち幕府医師桂川甫賢(国寧)に渡ったことがわかる。

ここで、知りたいのが伊東玄朴はいつから滝野姓を名乗っていたのかということである。天保2年12月15日に、玄朴は伊東仁兵衛弟として、佐賀藩の一代士に抱えられている。

伊東仁兵衛弟

伊東玄朴

其方儀蘭学医術拔群上達向を以て御用にも可相立に付、七人扶持被下置一代士に被召出旨、被仰出候

天保2年12月15日には伊東玄朴と名乗っていることがわかる。したがって、滝野姓であったのはそれ以前である。執行から、滝野姓に、いつごろ名乗ったかは今のところ不明である。今後の研究課題としたい。

会員・医学史情報

第二回在来知歴史学国際シンポジウム in 佐賀

10月25日(木) 在来知学術シンポジウム

テーマ：在来知と現代

一 日中両国の科学技術と経済発展を在来知の視点から解明する一

会場：佐賀大学・大学会館2階多目的ホール

- 9:30 開場・受付
- 10:00~10:30 オープニングセレモニー
 あいさつ・・佛淵孝夫（佐賀大学学長）
 Welcome Message
 青木歳幸（実行委員長）
 李 毅 （実行委員長）
 武 力 （中国側研究者代表）
 中村政俊（プログラム委員長）
- 10:30~11:30
 基調講演Ⅰ（PT-1） 長野暹佐賀大学名誉教授
 幕末佐賀藩の反射炉と在来知
- 11:00~基調講演Ⅱ（PT-2）
 李 毅：中国社会科学院世界経済与政治研究所研究員，中心主任
 在来知と産業持続可能な発展における歴史経路の選択
 「日本の経験は中国産業発展に対する意義」
- 11:40~12:30 分科会 PresentationⅠ（1,2）
 第1席（PR-1）：武 力：中国の技術進歩の飛躍的發展を論ず
 ——製鉄工業の發展史を例として——
 第2席（PR-2）：佐藤賢一：江戸時代におけるオランダ由来の測量術
- 12:30~ 昼食
- 14:00~15:40 PresentationⅡ（3,4,5,6）
第3席（PR-3）：牛亜華：江戸時代における日本の解剖学訳書と中国の伝統医学
第4席（PR-4）：海原 亮：19世紀前半における地方藩医の蔵書と学問
第5席（PR-5）ヴォルフガング・ミヒェル：
伝統と革新-江戸・明治期の日本における医科器械
 第6席（PR-6）：陳 建：日本の明治維新时期と中国洋務運動期における
 技術導入の比較研究
- 15:40~休憩
- 15:55~17:35 PresentationⅢ（7,8,9,10）
 第7席（PR-7）：福田舞子：軍制の近代化と武器・弾薬製造部門の変化
 第8席（PR-8）：片倉日龍雄：幕末期佐賀藩の情報収集と海防体制
 第9席（PR-9）：岩松要輔：幕末佐賀藩士が見た中国
 第10席（PR-10）：周見：渋沢栄一の中国観
- 18:30~ 20:30 Banquet、ホテルニューオータニ佐賀

10月26日（金）

- 9:00 開場・受付
- 9:30~10:20 PresentationⅣ（11,12）
 第11席（PR-11）：高瀬哲郎：日本の城郭石垣に於ける伝統的技法について
 第12席（PR-12）：鬼塚克忠：地盤工学から見た古代墳墓の様式について
- 10:20~10:35 休憩
- 10:35~12:15 PresentationⅤ（13,14,15,16）
 第13席（PR-13）：富田紘次：近世の佐賀城下絵図 —佐賀市街地形成の原点

第14席 (PR-14)：大串浩一郎・日野剛徳：地盤工学的・水工学的アプローチによる城原川流域の伝統的治すに関する研究。

第15席 (PR-15)：真崎精治：真崎鉄工場と地域社会

第16席 (PR-16)：本多美穂：幕末における銅製大砲の鑄造—西洋技術と在来技術の融合

12：15～13：45 昼食

13：45～14：50 Presentation VI (17, 18, 19)

第17席 (PR-17)：倪月菊：江南造船所：近世から現代の変遷

第18席 (PR-18)：前田達男：幕末佐賀藩三重津海軍所における修船施設

第19席 (PR-19)：田端正明, 隅谷和嗣, 石地耕太郎, 前田 達男, 中野 充

幕末・明治初期の三重津海軍所跡からの発掘遺物のシンクロトロン蛍光X線分

析

14：50～15：15 休憩

15：15～16：05 Presentation VII (20～21)

第20席 (PR-20)：脇田久伸, 栗崎 敏, 奈木野勇生, 田中哲博, 横山拓史, 長野 暉
XRD, XPS, ICP-MS による歴史試料中の希土類元素の定量

第21席 (PR-21)：林 柏, 新中国からの技術導入は技術進歩と経済発展に対する役割

割

16：05 終了、休憩

第2回在来知歴史学国際シンポジウム第Ⅱ部

10月27日(土) 産学官連携世界遺産学術シンポジウム

本シンポジウムでは、地域の歴史文化遺産をどのように保存・活用していくかという問題を、地域に関わる人々共通の課題として捉え、中国・日本の講演や報告をします。世界遺産活動や地域づくりなどに関心をもたれる方々のご参加をお待ちしております。

テーマ：世界文化遺産と現代—中国と日本の世界遺産を考える—

会場：佐賀大学・理工学部6号館1階大講義室

12：30 開場・受付

13：00～13：30 オープニングセレモニー

あいさつ・秀島敏行(佐賀市長)

・青木歳幸 (General Chair・地域学歴史文化研究センター長)

13：30～14：30 えびすDEまちづくりネットワーク、
循誘小学校児童、勸興小学校児童発表

14：30～15：50

講演 I (LC-1)

張濤：清華大学自動制御学部副教授、副学部長、工学博士

Exploration and Research on Archeology Information
Technology

講演 II (LC-2) 成富直行佐賀市都市デザイン課課長

九州・山口の近代化産業遺産群と三重津海軍所跡

15：50 終了

10月28日(日) Technical Tour Visiting to Saga-Clan Heritage (長崎)

■ 中国側報告者

1. 李 毅：中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員、中心主任
中国經濟史学会外国經濟史専門委員会副会長
2. 張 濤：清華大学自動制御学部副教授、副学部長、工学博士
3. 武 力：中国社会科学院当代中国研究所研究員、副所長、中国經濟史学会副会長
4. 陳 建：中国人民大学經濟学院国際經濟学部教授、深圳研究院常務副院長、
5. 倪月菊：中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員
6. 林 柏：山西大学晋商研究所副教授
7. 牛亜華：中国中医科学院中医药信息研究所研究員
8. 周 見：中国社会科学院世界經濟与政治研究所研究員

■ 日本側報告者

1. 長野 暹：佐賀大学名誉教授
2. 高瀬哲郎：石垣技術研究機構代表
3. 鬼塚克忠：佐賀大学名誉教授、日本建設技術株式会社技術研究所所長
4. 海原 亮：住友史料館主任研究員
5. ヴォルフガング・ミヒェル：九州大学名誉教授、日本医史学会常任理事
6. 福田舞子：大阪大学適塾記念センター特任研究員
7. 佐藤賢一：電気通信大学准教授
8. 真崎精治：新生工業株式会社社長
9. 脇田久伸：福岡大学理学部教授、DV-X α 研究協会会長
10. 富田紘次：財団法人鍋島報効会(徴古館)学芸員
11. 前田達男：佐賀市世界遺産調査室長
12. 片倉日龍雄：幕末佐賀研究会会員
13. 岩松要輔：小城郷土史研究会会長
14. 田端正明：佐賀大学名誉教授
15. 本多美穂：佐賀県教育庁文化財課係長
16. 大串浩一郎：佐賀大学大学院工学系研究科教授
17. 成富直行：佐賀市都市デザイン課長

■ 申込・問合せ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

佐賀大学地域学歴史文化研究センター TEL/FAX 0952-28-8378

E.mail: chirebun@ml.cc.saga-u.ac.jp

会員情報

本号は、伊東玄朴の名前の謎と10月25日から28日にかけて佐賀大学で開かれる国際シンポの案内です。中国の研究者8人、日本側研究者17人の研究報告には、興味深い医学史の報告もあります。参加料無料(ただし資料代1000円)ですので、ご参加ください。この12月2日が市内医史跡めぐり、12月16日が医史学会総会です。(青木歳幸)